今月のトピックス

特集

会社訪問 -No.18
有限会社八千代運送 様

「周囲への感謝」胸に刻み事業を拡大
創業 65 年を迎えてさらなる飛躍を誓う

昭和 30 年に創業し、今年で 65 年目を迎えた有限会社八千代運送（千葉県八千代市）。
会社の創業と同じ年に生まれ、40 歳で３代目社長に就任した福島昇代表取締役は、経営環境が厳しい中においても懸命に事業を拡大。「周りの方々とのご縁があったからこそ、現在の当社がある」という謙虚な気持ちを大切にしながら、同社のさらなる飛躍に向けて日々奮闘を重ねている。

平成 29 年に開設した印西松崎台倉庫にて。ピカピカの車体に「YACHIYO」のロゴが誇らしく輝く

■定着率向上に繋がる「従業員の待遇改善」　習志野支部長として会員の発展に貢献

㈲八千代運送（福島昇代表取締役）は、八千代市内に本社営業所と八千代車庫を構えるほか、印西市内に印西営業所（平成 24 年開設）と印西松崎台倉庫（29 年開設）を設けている。同社が創業した昭和 30 年当時、八千代市（当時・八千代町）では酪農が盛んで、同社では原乳や牛乳製品などの輸送を行っていたほか、地元で生産された野菜を東京の築地市場まで輸送していたという。しかし、その後宅地開発の本格化に伴い酪農農家が減少したことから、40 年代頃から同社では新たな取引先を次々と開拓。現在は、食料・飲料品関係を中心に、タイヤや段ボール、オフィス用品など様々な輸送を手がけるとともに、倉庫事業にも乗り出すなど、事業拡大を図ってきた。

同社を創業したのは、福島社長の叔父にあたる福島三郎氏で、40 年には福島社長の父親である愛義氏が２代目社長に就任した。福島社長は同社が創業した 30 年に生まれ、幼い頃から叔父と父親が輸送の現場で汗を流す様子を間近で見てきたが、当初は同社に入って跡を継ぐことは全く考えていなかったという。福島社長は 53 年に大学を卒業し、学生時代からアルバイトをしていた一般企業に入社。しかし、その４年後に愛義氏が心筋梗塞で倒れたのをきっかけに、勤めていた会社を辞めて同社に入社した。

その後、愛義氏の体調が回復したこともあり、福島社長は同社などの共同出資によって設立された㈱習志野トラックセンター（福島昇代表取締役社長）に転じ、家具の輸送にあたるなど、運送業界での経験を着実に積み重ねていった。その後、同社に戻った福島社長は、成田空港で飲食店などを運営していた卸売会社からの仕事を獲得。飲食品や免税品などを輸送するとともに、父親のもとで経営を学んでいった。そして平成７年、愛義氏が 70 歳になったのを機に、福島社長は 40 歳で同社の３代目社長に就任した。

福島　昇　代表取締役

当時は平成バブル景気崩壊により、景気後退が深刻な時期でもあった。そうした厳しい時期に社長の座を受け継いだ福島社長は、「何とかして売上をアップさせて会社を守っていきたい」と、新規荷主の開拓を精力的に進めるなどがむしゃらに仕事に励んだ。その結果、社長就任翌年には売上額が前年の２倍ほどに達し、その後も７～８年ほど売上が右肩上がりで推移したという。

「荷主の皆様など周りの方々に支えられたからこそ、社長就任当時の苦境を乗り越えることができたと感じています。『周りの方々とのご縁があったからこそ、現在の当社がある』と考え、感謝の気持ちを忘れずに日々事業に取り組んできました。また、苦境にめげずに一緒に頑張ってくれた当社の従業員も、私の大きな支えになっています」（福島社長）

社長就任を機に、福島社長は協会活動にも積極的に参画していった。７年に習志野支部の役員に就任した福島社長は、同年秋に支部内に青年部を立ち上げ、若き経営者たちと交流を重ねた。

16 年に習志野支部長に就任した福島社長は、「支部会員事業者の皆様に貢献していきたい」と、様々な取り組みを進めた。そのひとつが、健康診断の受診促進である。習志野支部には、習志野市と八千代市の運送事業者が所属している。以前は習志野市内のみで健診を行っていたため、八千代市の事業者の健診受診者数が比較的少なかったという。そこで、八千代市内でも健診を行うようにしたと

飲酒運転撲滅を図るため、同社ではアルコールチェックに力を入れている

社内のアットホームな雰囲気も従業員の定着率アップに繋がっている

印西松崎台倉庫では段ボールやタイヤなどを保管。「輸送品質の確保」を最優先に業務を展開している

ころ、受診者が大幅に増加。現在では2000人ほどが受診している。併せて、健診受診のための補助金制度（1人当たり500円）を支部独自に設けている。

「支部会員事業者の皆様に対して等しくサービスを提供していくことで、少しでも皆様の事業運営のお役に立ちたいと考えています。おかげさまで、支部内の会員事業者数は現在増加傾向にあります」（同）

さて、同社の特徴のひとつとなっているのが、従業員の定着率の良さである。同社では、73歳の従業員も現役で活躍しているという。同社では、2トン車や4トン車、大型車による輸送のほか、八千代市内の学校への給食配送や一般ごみの収集なども行っている。学校給食配送のドライバーは1日6時間勤務（8時30分～15時30分）で、夏休みや冬休みなど学校が休校になった場合には給食配送の仕事も休みになる。そのため、体力の減退などに伴って大型車の運転を引退した高齢ドライバーが多く活躍している。また、一般ごみの収集も勤務時間は比較的短いため、こちらでも高齢者が多く活躍している。ちなみに、先に紹介した73歳の従業員は、ごみ収集の作業員として日々仕事に励んでいる。

また、同社では定着率アップに繋がる従業員の待遇改善も着実に進めている。積み込み作業の見直しなどを通じてドライバーの拘束時間削減を推進。現在では、ドライバーの1月あたりの残業時間が80時間を超えない状況になっているという。併せて、従来休みを取ることが少なかった管理者層に対して、休暇の取得を後押し。管理者には土曜・日曜のいずれかを休ませるようにしたことで、社内の雰囲気も「休みを取りやすい職場」へと変化してきている。さらに、待遇改善の原資となる適正な利益を確保するために荷主との運賃交渉も進めており、貨物自動車運送事業法改正に伴って告示された「標準的な運賃」の活用について、社内の経営会議で現在議論を重ねているという。

一方で、同社では近年業界未経験者の採用に力を入れている。2トン車の多くをオートマチック車に入れ替えて新人ドライバーの負担軽減を図っているほか、若年層ドライバーに対しては、スキルアップに繋がる大型免許の取得を積極的に働きかけている。昨年は3人のドライバーが新たに大型免許を取得したという。

同社ではドライバー募集に際して、ハローワーク（公共職業安定所）を活用したり、紙媒体やインターネット等での募集広告を実施しているほか、地元FMラジオ局でのCM放送も行っている。県内に幅広く同社の魅力をアピールことができることから、九十九里町や山武市など、比較的遠方の若年層からの問い合わせも少なくないという。

「自社のCMがFMラジオで流れることで、当社のイメージアップに繋がるため、若年層獲得の大きな武器になっています。また、従業員のモチベーションも高まっています」（同）

最後に、今後に向けての取り組みについて、福島社長に伺った。

「私が社長に就任した時、先代社長は70歳でした。当社の創業と同じ年に生まれた私も、65歳になりました。次の時代を担う人材にどのように社業を引き継いでいくべきか、現在熟慮を重ねているところです。当社は創業65年を迎えましたが、長年の事業運営を通じて頂戴してきた多くの皆様からの信頼を一層高めていくために、感謝の気持ちを大事にしながら、今後も日々精進していきたいと考えています」（同）

ホットにゅーす

心の癒しとなる国内外への旅行 近年はスポーツクラブにも通う

福島社長の趣味は、旅行と釣りである。

カナダやオランダ、ベルギー、フィンランドなど諸外国への旅行を楽しむことも多い一方、国内の温泉を巡るのも楽しみだと、福島社長は語る。なお、国内ではこれまでに宮崎県以外の46都道府県を旅行で訪れたことがあるという。

また、釣りではもっぱら渓流ルアー釣りを行っている。

さらに、近年では週に3回スポーツクラブに通い、バーベルを上げたりランニングマシンで走ったりして汗を流している。

旅行先の高知県立坂本龍馬記念館前で、ブロンズ像の坂本龍馬と握手を交わす福島社長

企業プロフィール

有限会社八千代運送

代表取締役　福島　昇
千葉県八千代市大和田769
従業員　110人（ドライバー90人）
台数　84台